

目次

| | |
|---|-----|
| 田上時子のエッセイ 子どもを加害者にも被害者にもしないために…………… | 1 |
| 特集 アンディ・ヒクソンさんインタビュー 非暴力を生きる…………… | 2～3 |
| 受講生の声 非暴力アクション・ワークショップ ファシリテーター養成講座を受講して…………… | 4 |
| 活動報告 アンディさんのジェンダー・ワークショップ/子どもの権利条約フォーラム 2003 in かわにし での分科会開催/ボランティア・市民活動元気アップアワ ードこつこつコース こつこつ賞受賞…………… | 5 |
| リレーエッセイ 山田ゆかり/三谷智恵子…………… | 6 |
| 講座インフォメーション…………… | 7 |
| 会員の紹介・入会のおさそい…………… | 8 |
| 編集後記…………… | 8 |

田上時子のエッセイ
子どもを加害者にも被害者にもしないために

7号から、NPO 法人 女性と子どもとのエンパワメント関西 理事長 田上時子がエッセイを連載しています。いまそこにある問題に対して、NPO 法人 女性と子どもとのエンパワメント関西 は何ができるのか、具体的にその目指すものについて語ります。

昨年（2003年）の刑法犯についてのまとめが警察庁から発表された。

それによると、昨年1年間に起きた未成年者が被害者になった刑法犯は385,762件で、前年より5.1%減であるが、窃盗や粗暴犯の被害が減る一方、殺人、強盗、性犯罪などの凶悪犯の被害は8年連続で増えていることがわかった。未成年者を狙った連れ去り事件は計415件、性犯罪は7,376件、児童虐待による死者も41人に増加。いずれも1972年の統計開始以来、最悪を記録したことになる。子どもを狙った悪質な犯罪は増え続けており、被害者の低年齢化が進んでいる。

また、昨年中に刑法犯全体で検挙された少年（14歳以上20歳未満）は前年度比1.9%増の144,404人、うち凶悪犯は前年度比11.4%増の2,212人を上回ったこともわかった。

「暴力には定式がある」と言ってきた。暴力は“power（力）”と“control（支配）”に関係があり、水が上から下へと流れるように、必ず力のある側から力のない側に行く、暴力とは「力の落差」が起こすのだと言い続けてきた。子どもが加害者の場合、より低年齢の子どもが被害者になる。つまり、子どもの加害者が増えれば、被害者の低年齢化が進むということである。

我がNPOは「子どもを暴力の被害者にも、加害者にもしない」ということを活動目的の一つにしているが、子どもを暴力から守るためには、被害者支援だけでは不十分で、加害者対策を考える必要があると感じ始めたのはいつ頃からだったろうか。

社会はますます暴力的になっている。偏見と差別とさまざまなレベルの力関係が構造的にある社会を見直し、まずはおとなのわたしたちが変わる必要がある。おとなが手本を示さない限り、子どもは協力的な人間関係を学ぶことはできない。

幼いうちからメディアの暴力的なメッセージに攻められ、この世界の悪影響に無防備にさらされている中で、暴力から子どもを守るために、子どもを助け、癒し、暴力から遠ざけるためにはどうすればいいのかを考え続けている。

自分が暴力の被害者になるかもしれないと知れば、人は自らも暴力の加害者になるものだという知識者がいるが、わたしはそうは思わない。実際、「非暴力」の最前線に立つ人たちは世界中にいる。

戦争のない世界を、穏やかで寛容な心を持ち合える人間社会を願っている。すべては次世代を担う子どもから始まる。「子どものエンパワメント」を我がNPOの理念にしているのはそのためである。